

神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和43年7月1日印刷 通巻87号 昭和43年7月1日発行 毎月一回



the kobekko  
no. 87  
july 1968

郷土を愛する人々の雑誌

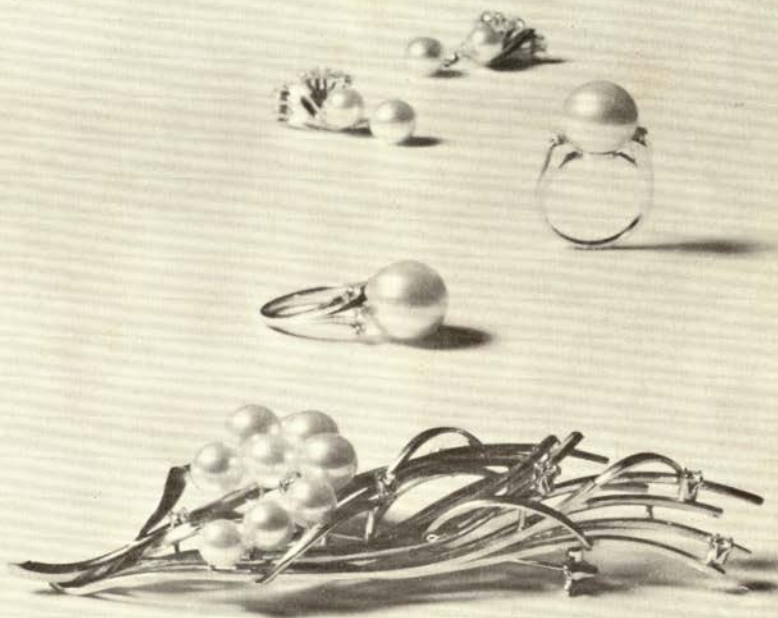
神戸っ子

7

1815013 01

## 御木本真珠発明75周年

7月11日は真珠の誕生日  
1893年7月11日御木本幸吉が  
真珠養殖に成功してから  
75年「世界の女性の首を真珠で  
飾りたい」という幸吉の言葉どおり  
ミキモトは  
真珠を女性に最も愛される  
宝石にしあげました  
そして  
ダイヤモンドなどの宝石装身具も  
最高級品を豊富にそろえ  
名実ともに  
世界の宝石店ミキモトとしての  
歩みをすすめています



御木本真珠店

神戸＝三の宮－神戸国際会館 Tel. 22-0062  
大阪支店＝堂島－新大ビル Tel. 363-0247

京都＝ミキモトパール京都(新門前通り) 大阪＝阪神・高島屋・松坂屋  
都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル 本店＝東京－銀座4丁目



風はさらさら

もったいぶった顔にも

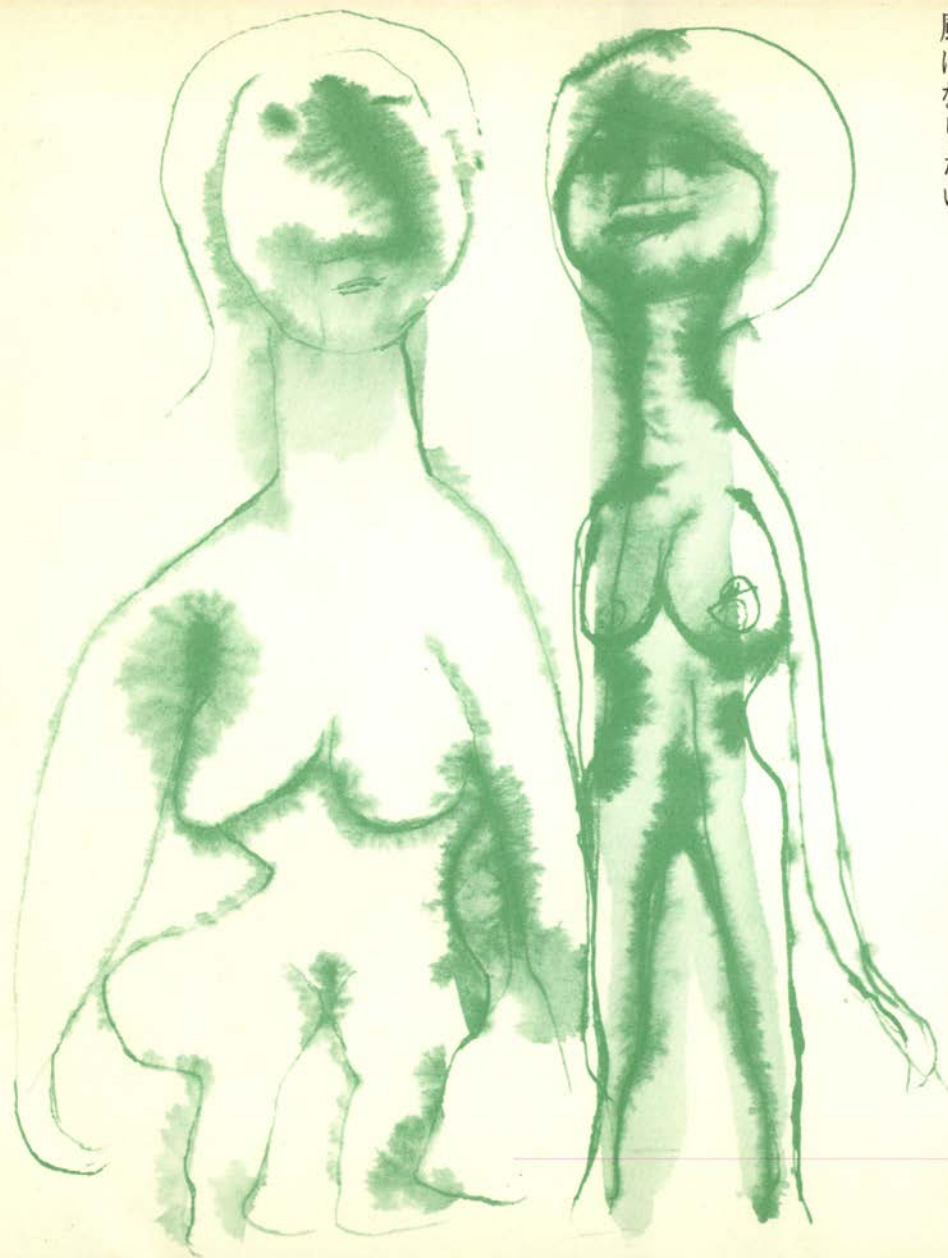
泣き顔にも

もちろんはだかのさばさばにも

わけへだてはない

あたしは

風になりたい



.....絵.....詩.....津高和一

美しさを創るオートクチュール

**アスター ニュートン**

神戸トアロード TEL (33) 1818

大 阪 阪 神 TEL(361) 1201



Gorlo



# 神戸っ子'68

デボラ・デビス

〔松蔭高校二年生 交換留学生〕  
神戸・シアトル

カメラ・奈良勝彦



デビイはアメリカからきた女の子。野球の好きな女の子。はにかむ顔の可愛い女の子。シアトル・フランクリン高校から、交換留学生として松蔭女子高校へ。

数学が好き、スポーツが好き、フォーク・クルセイダーズが好きというデビイも、この三月神戸に着いた時は、二週間程ホームシックにかかったとのこと。お華、日本舞踊と、積極的に日本人の生活様式に溶けこもうと努力している。

九州方面への修学旅行から帰ったばかりの彼女には全校生が友達である。デビイ、デビイ！の声がひっきりなしにかかる。神戸っ子の新しい「ともだち」を歓迎しよう。



写真はいずれも松蔭女子高校にて

# TASAKI PEARLS



夏・クールなタサキパール

## 田 崎 真 珠

本 社・神戸市葺合区旗塚通6-9  
三 宮 店・神戸新聞会館秀品店内  
パールファーム神戸・神戸市灘区六甲台町2-4  
銀 座 店・東京都中央区銀座西6-5  
パールファーム・溜池電停前(ショールーム)  
ヒルトン店・東京ヒルトンホテル内  
オータニ店・ホテル・ニューオータニ内  
札幌店・札幌パークホテル内

あなたの真珠はパール・マークのお店で  
日本真珠小売店協会加盟店





# 神戸っ子'68

岡田

淳

〈神戸大学教育学部四年生〉

カメラ・奈良勝彦



星泥棒。これがマンガを画く彼に贈る称号だ。

星を盗むって実に素晴らしいことです。盗めないものを盗もうと努力する。これが僕のマンガのテーマです。ジャズ喫茶の喧噪の中でこそ孤独になれ、冴えた感覚でイメージが湧いてきますね。

現代の学生気質？自己に対する問いかけがないですね。僕の画くマンガがその契機になればと思っています。言葉に対する不信任感、オリジナリティの追究、自己を表現することによる創作活動。すべて、マンガに生きようとする岡田淳君の情熱のほとばしりであろうか。

大阪在住。神戸大学教育学部四年生。神戸っ子に六月号から『象』シリーズでマンガを連載中。期待されるフレッシユマンだ。

写真右は、神戸大学構内にて。夢を食う獺さながらの岡田君である。  
写真左は、オリエンタルホテルにて、彼の求める星は、常に彼の頭上に輝いている。



☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ サントリー〈純生〉でスコール!! ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

イルミネーションが静かに輝く  
ビヤガーデンでビールを飲む  
夏の宵は最高です



〈1〉なごやかなムードで一品料理を

(二品料理は盛りたくさんに準備しています) 9階

〈2〉味の多様化時代に最適の

北欧風バイキング料理を

〈3〉屋上ビヤガーデンへもぜひどうぞ!

9階

飲みほうだい (サントリー純生ビール クラウン・コーラ) + 食べほうだい! 〈北欧風ヴァイキング料理〉 1,200円〈飲食税120円別〉



なごやかな  
ムード  
すばらしい  
眺望!

一品料理もあります 三宮交通センタービル9階 TEL 078-3705-6

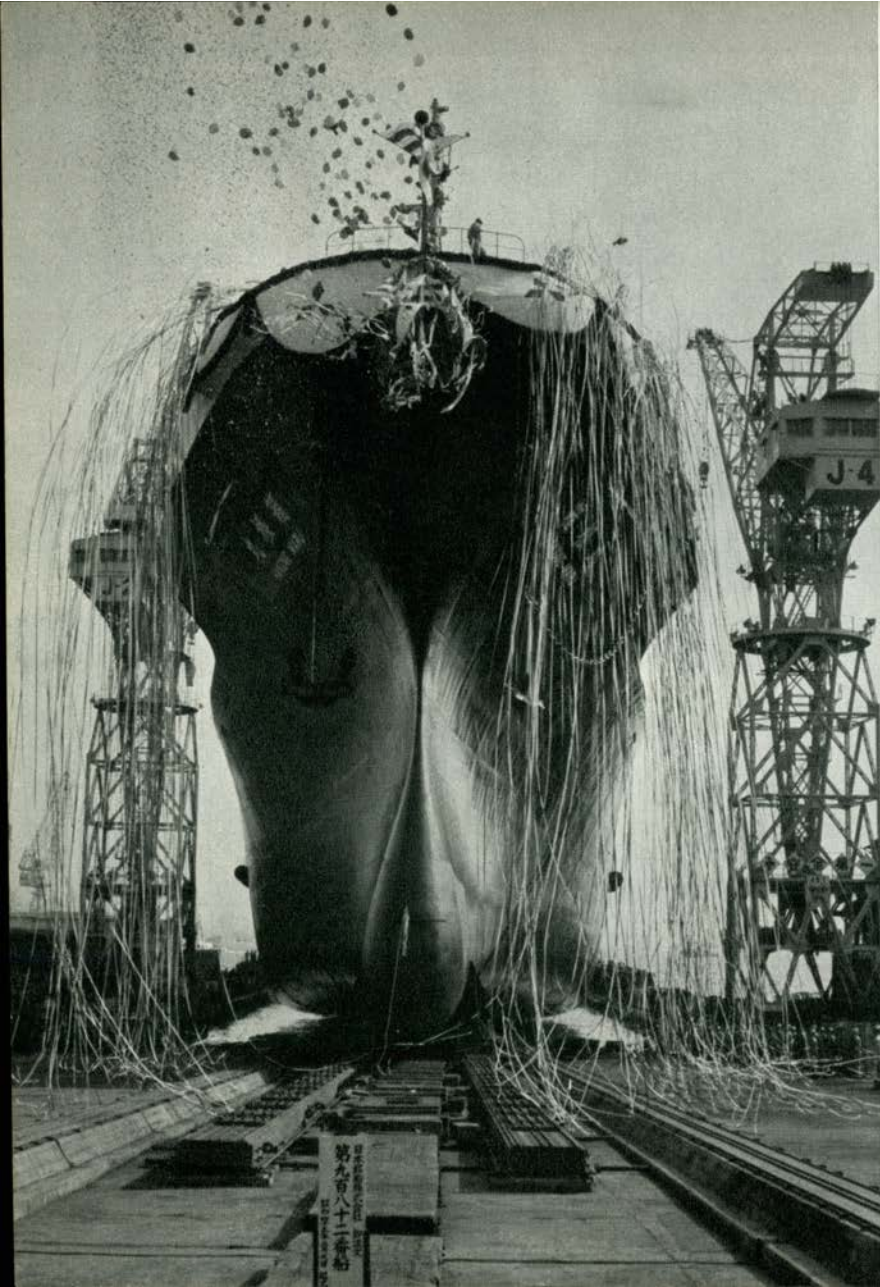
**スカイサントリー**



★コウベ・スナップ



神戸は海の街である。  
船の帰る家庭である。進水式は船の誕生。  
5月17日。輸送革命のトップを行く  
フルコンテナ船「箱根丸」が  
三菱重工神戸造船所で進水式。  
わが国初の大型新造リフトオン・リフトオフ型で、  
注文主は日本郵船。  
摩耶ふ頭、ポートアイランドと  
海に向かってコンテナヤードを広げる  
神戸の海に浮かぶ日も間近か。  
一方、同日川崎重工業において  
潜水調査船「くしんかい」の進水。  
海上保安庁の発注で大陸棚調査が目的。  
クレーンで吊り下げて海面に降ろすという、  
風変わりな光景。  
港都神戸でこそ海風景であった。





ワインコーナー REX

西元町駅地下街

光のパイオニア

舶来ムード 照明の店  
**モトデン**

本社★神戸市生田区元町6丁目26④4196  
 工場★神戸市葺合区琴緒町1ノ10②8947

## 《今月の店舗》

洋酒倶楽部 LEO

生田東門筋キクヤ電気ビル3F

**KOBE  
 NIKKEN**

インテリア 神戸日建  
 コンパニオン

建築設計施工 店舗改造  
 神戸市生田区中山手通3丁目  
 PHONE 22-7172・6052







「書の世界を通じて人間形成を」と、進境いちぢるしい女流書道家望月美佐さんが、昨秋、書道に入って10年をむかえ、門下生をふくめて、鳳美社®を結成した。

「4才ぐらいから教えてみたい」という美佐さんの門下には、子供たちから、ミセス、B G、お嬢さん、サラリーマン、商人など巾広く、約二百人が書に親しんでいる。

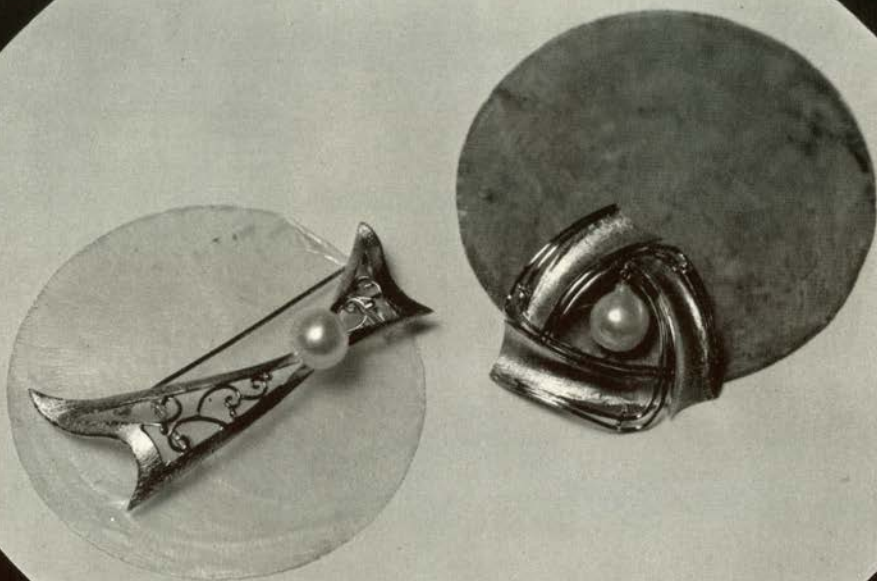
日展をめざす、徹夜の錬成会。毎月第三月曜日に阪口保教授を迎えて万葉の研究会。人間の巾を広げようと、講師に阪本勝、津高和一、足立巻一、陳舜臣さんなど文化人のお話を聞く会。篆刻篆書を三月に一度彫るなど、望月さんの向学心が、門下生にもみなぎっている。

水室町の自宅の二階に集まった幹部の人々は、きさくで美人の望月師をかこんで、和気あいあいのムード。先生ゼンとしない若々しい人間的な魅力に、ひきずられてゆきます」と、ともに歩む鳳美社門人の声がきかれた。

★前列左から内藤叔齊。高田君子。中山洋子。内藤静代。望月美佐師。矢持陽一。渡辺楚舟。尾崎浩平。鹿田藤子。

後列左から細見敦子。坂田節子。三浦紫光。志度清昭。堀井幸子。

ある集い  
鳳美社



海のクイーン・パールがあなたのシックな装いに クールな夏をつくれます

村田\*真珠/銀座山岡\*毛皮/舶来婦人服飾



**ムラタ**

さんちか\*レディスタウン・TEL 39-3886-7



# ● 7月号 目次 ●

これは神戸を愛する人々の手帖です。あなたのくらしに  
楽しい夢をおくる。神戸を訪れる人々にはやさしい道しる  
べ、これは神戸っ子の手帖です。

表紙——小磯良平

1 Second Cover／津高和一

3 神戸っ子'86／撮影—奈良勝彦

①デボラ・デビス・②岡田淳

7 コウベ・スナツブ／造船神戸のニューフェイス

9 わたしの意見／鳳美社

13 随想三題／佐多岬の蠅・榊井一夫

15 船員と趣味・山口篤利

海・直木太一郎

18 ある集い・その足あと／鳳美社

随想／海と日本・玉井操

23 随想／海・赤尾兜子

25 連載随想・Rocking Chair／少年と金魚・十河巖

海特集①神戸っ子対談／四方田耕三・砂野耕一

33 経済ポケットジャーナル・オフィスレディ

34 技術ジャーナル／諸岡博雄

37 ダイナミック神戸⑥加藤汽船の巻

春木一夫・たかはしもう

連載マンガ／傘の岡田淳

42 神戸のアーバンデザイン／水谷顕介

44 神戸のモダンリビング／チームUR

CINEMA②／淀川長治

48 動物園飼育日記／亀井一成

53 神戸の集いから

百店会だより

57 神戸カメラポ／ある日ある時・奈良勝彦

PORT LOOK／福富芳美

68 海特集②座談会／瀬戸内は招く 山本芳樹

71 西尾牧夫・松木哲・枝光良之・小幡啓子

82 リラックスインタビュー⑦

宮本直介・中山正治 きく人・向井修二

86 光の環境／現代の空間展から

88 神戸遊戯誌⑨パレールハ3／青木重雄

90 マダム・ド・コウベ⑦／ステグマイヤー夫人

96 竹田洋太郎

ポケットジャーナル・花時計

100 連載物語第十回・非悪童物語／足立巻一

110 連載小説／兵庫の女／二十九回／武田繁太郎

119 こうべ・ろまん⑦／有馬

文・陳舜臣 カメラ・緒方しげを

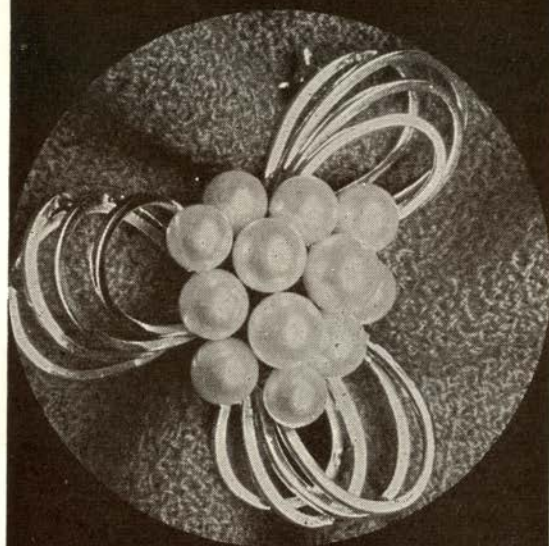
カメラ／米田定蔵

レイアウト・カット／港野千穂



Kitamura Pearls

世界の人々に愛される  
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL 33 0072

東京：スキヤ橋店 TEL 571 8032



DAIMARU'S NEW FRONTIER

おかげさまで《外装》が  
美しく生まれかわりました  
店内も より若々しい魅力  
づくりをいたしました



お中元に  
大丸の優秀品

タオル・シーツから洋品雑貨・家庭  
用品・食料品まで全館いっばいにお  
中元好適品を取りそろえました。  
3階にはお品選びにご便利なお進物  
センターを設けております。

9都市に共通 大丸の商品券・1階



電・神戸 (078) 33-8121 (大代)



## 最大限の利用価値のあるポートアイランドに



菊地 吉雄

〈東和汽船KK社長〉

——ポート・アイランド建設について、ひとこと……。『今までの第四工区または三宮の市街地改造などみても、学者と当局だけで青写真を作成してから『こういうのを造ります』ということ、初めて利用者に報告されました。だから、プランニングの段階では、利用者はつんばさじきに置かれています。しかし、ポート・アイランド計画では、最初は、企画委員会が学者と役人だけで組まれていましたが、それでは業者の意見が反映しないということを強く提言したところ、海運・倉庫・貿易の業者の代表が入り、話し合いをして、プランをたてる方向へもっていくことができました。

ポート・アイランドには、相当数の港湾関係の業者が住み、学校や、公園もできます。場所が場所だけに、市民に潤いがあるように考え、そういう観点に重点をおいて一つの町づくりをしなければいけません。今度は、そういう業者の意見を反映し、完成後の設備を最大限に利用できる方向にもってゆかねばだめだと思いますよ」

——神戸港に対して、ご希望をお聞かせ下さい。

「神戸の繁栄策としての神戸港について考えた場合、例えば、海上保安庁の船を利用して、港をまわるというサービスをして、神戸の港のPRをすれば、どうでしょうか。特に、修学旅行の中・高校生が喜ぶと思うのですが……。ギブ・アンド・テークの精神でPRをしなくては。日本人はPRの仕方がどうも、下手ですね。

わたしたちも去年、開港百年祭を記念するため、神戸船主会が何か記念事業をしようということになって、色々案を出したのですが、お流れになり、やっと、今年一月に、神戸灯台に、前衛書道家・長浜光さんの『神戸港』と書いた、ステンレスの額をかけることが実現しました。これは世界で初めてのことだし、神戸のPRになるのだけれど、公に報道されませんでした。神戸港の発展のためにも、神戸市当局は、もっとPRすべきだと思いますよ」

選びぬかれた世界の品々を  
贈りもの・プレゼントに



元町2丁目  
③3 4 7 0 7 ~ 8

*Nakanishiwa*



宝石  
貴金属  
時計

梅田阪急前店オープン

**仲庭**

さんちかタウン (39) 4 5 9 3  
梅田新道 堂ビル北(364)8121代表  
梅田阪急前(御堂筋東側)  
(313) 0512代表  
桜橋 毎日新聞社前(341)0412  
新大阪ステーションストア  
大阪ロイヤルホテルセイコーショップ



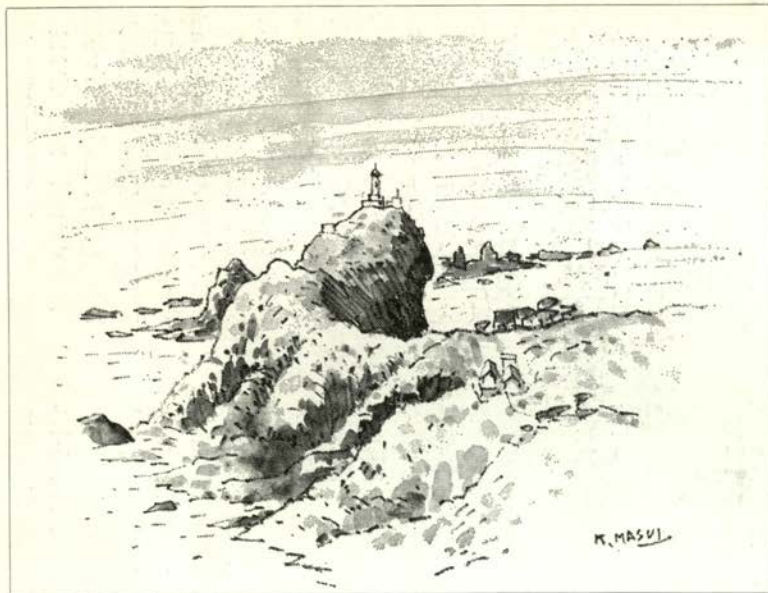
■随想三題■

佐多岬の蠅

梶井 一夫 ハカットもV

洋画家

十年ほどにもなるであらうか、九州の最南端、大隅半島の佐多岬へスケッチに行ったことがある。指宿に近い山川港から船で一時間、秀麗な開聞岳を右舷に見なが



ら伊産敷港へ着いた。バスで大泊へ、車中私の近くの席で話し合っている土地の老人三人の話の内容は半分もわからない。その老人たちも終点の大泊に着くまでに下車してしまい、残ったのは、私と同じようなリュックを持った中年の人と私だけになってしまった。絵を描く人ではないらしいが、話し相手が欲しかったものだから何となく親しくなった。大泊で下車してから二人がかりでようやくたずね出した漁師の家で泊めてもらうことが出来た。

通された二階の部屋は六畳と四畳半、その部屋からは海は見えないが、磯の香りが強く匂ってくる。漁師のおかみさんが持つて上がってくれた番茶でやっと落ちつくことができた。

連れの人はさっそくリュックから試験管や紙コップなどを取り出している。どれも私には縁のない品物ばかりだが、いろいろな話を聞いて驚いた。その方は東大理学部助教授のA先生で、わざわざここまで猩々蠅の採集に來られたのだった。

「今からその蠅を採集に行きますが、一緒に行きませんか」物好きな私がそんな誘いを断るはずがない。海岸にほど近く、あまり強い風のあたらない山あいの立木の枝に、腐ったバナナを入れた紙コップをぶら下げておけばよい。たそがれ時になると、腐ったバナナの匂いにつられて、この紙コップの中へ入ってくるそうだ。

夜明け前にA先生に起され、蠅の採集に出かけた。昨日釣り下げた紙コップに静かに近づいてから、「そーと取ってうつむけるとよい」と教えられた。蠅は上へ逃げることは知っていても、下へ逃げることは知らないらしい。そういえば、昔、丸い形をしたガラスの蠅取り器でそんなものがあつた。試験管が先にさしこんであるガラスの漏斗じょうごのようなものを下からあてがい、上をむけてから紙コップのふちを軽くたたくと、中の蠅はひとりでに試験管の中へ飛びこんでくれる。

こうして五十個の紙コップをつ

ぎつぎ採集して行った。

宿へ帰り朝食をすましてから、採集した蠅の整理にかかられたが、目的の猩々蠅以外の昆虫類は全部捨てられ、猩々蠅だけをビンセットでうまくつまみ出し、バナ

ナを入れた別の試験管の中へ十四単位につきぎつぎと入れ、小さい空気抜き穴がいくつか空けてある木栓でつめをしてゆかれる。そのうちに、「おお、いた！いた！私

がびっくりするほどの大声をあげられた。「梶井さん、よく見てごらん、ほかの猩々蠅と頭の

ところの色が少しちがうでしょう。ちよつと黒みがかっているし、身体もやや大きいでしょう。これは琉球の猩々蠅です。この猩々蠅が取りかかったんです。ひょつとしたら佐多岬あたりまで来ているかも知れないと思った私の予感的中したのです。この一匹を採集しただけで、はるばる東京からやって来た甲斐がありました」

「こんな小さい蠅が、琉球あたりからどうして飛んでくるんですか」「船に積みこむ荷物についてやってくるんですよ」「どうしてこんな猩々蠅を採集されるんですか」「猩々蠅という奴は、十日目ぐらいで子を生み、その子が十日ほどたてばまた子を生み、その子がまた十日ほどたてばまた子を生むという具合で、一カ月間に三

代の遺伝の観察研究が出来るわけです」今朝の採集で琉球の猩々蠅が三匹とれた。その三匹を貴重な宝石のように、慎重に試験管の中へ入れておられる先生の顔は底抜けに明るく輝いていた。

蠅ばかり見ている、自分の絵はちつとも出来ないのも佐多岬へ灯台を描きに出かけた。絵を描きながらも、一匹の蠅を求めて、はるばる東京からこの佐多岬までやって来られた一科学者の情熱にはほとほと感腹した。仕事への情熱というものが、どんなものであるかということを、今日この目ではつきり確かめることができたような気がした。地球が球体であるということの実証を、ここ佐多岬の岩頭の一角に立つて初めて自分の目で確かめられたように。

そして私は、大平洋の青い海をバックにした白い灯台の姿がこんなに美しく感じられたことはなかった。

## 船員と趣味

山口 篤利

神戸商船大学教授

アメリカ大陸の西岸を北はカナダから南はチリまでの南米西岸航路の船長として、一航海だけで船員生活に終りをつげ大学の教壇に立つはめとなり十年を経過し

た。私には未練の多い航路であったのだが、「自分の職業以外に何か趣味をもて、しかも船員でなければできないようなものを。月給をとるだけの船員生活ではつまらない、きつとあきがくる」と学生に説く私である。航海ごとに研究テーマを選びそれに熱中するとき船員としての喜びを感じる。ピラミッドもよいテーマであったし、ユダヤ問題から墓や写真の研究と次々にテーマは変わる。南米西岸航路ではインカの研究である。内地出港前インカに関する資料を探し求めたが満足できるものはなかった。

北太平洋航行中NHKの短波放送がペルー政府は東大の泉靖一先生に墓地発掘の許可を与えたと報じた。パンクパーに入港するとさっそくリマ駐在員に手紙を書き泉先生との面接の斡旋を依頼した。プレスコットの著書であるペルー征服やその他の洋書も入手できた。その日から受験学生のように、これらの本を訳すことが日課となった。ペルー入港までにインカに関する漠然とした知識がある程度系統だてて整理され理解することができるようになった。

ペルーのカヤオに入港すると泉先生夫妻はクスコから飛行機でかけつけ、リマのフィッシュ・ミル会社重役の高橋さんと共に訪船さ



れた。そして久しぶりの日本食と灘の特級酒で故国をしのびつつ先生にインカ文明研究の手ほどきを教わった。そのとき高橋さんからチャンカイで発掘したんだというインカの陶器の壺をいただいた。

復航再び寄港したとき高橋さんの案内で、いまだに妖気の漂うインカの墓地で数百年前の織物道具箱や糸巻き、織りかけている布などを発掘した。船員生活の終止符はインカに関する研究を未完成のままにしている。未練が残ってならない。

## 海

直木 太一郎

神港倉庫KK社長

「海」という題を出されると、昔入試で「或る日」という作文に隣席の中国留学生が太陽のことを書いていたのに合格していたことが思い出され、私も同じような見当違いの答案を書いてみたくなった。

山国に生まれ物心がついてはじめて海というものを見た驚きと喜びとは、どんなものかと思われるが、兵庫の港町で生まれた私は不幸にもそれを知らない。幼い頃博覧会の世界一周船に乗って紅海スエズ運河を経てポートサイドか

らマルセイユへと連れて行かれた時の、パノラマに描かれていた風物と、ザリツという波の擬音がいまだに忘れられずにいる。大学へ入った頃、毎日新聞が「五十年後の太平洋」という懸賞論文を募集したことがあったが、その当選一席は、滑るように太平洋上を走るタイタニック号にまさる豪華船のサロンで、さまざまな音楽、珍らしい酒食、それに教養高き美男女をそろえたバーティの有様を描写したものであった。

それから三十年もへだたっていない十余年前の私の世界一周でももう太平洋は鹿の子雲のはるか下に、大西洋はバラ色の雲の彼方にそして地中海、印度洋などすべて飛行機の窓から見おろしたただけで水に浮かんではスイスの湖上の遊覧船ただ一つであった。今ならジェット機でアツという間に太平洋を越えてしまう。五十年の歲月というものは、いかに想像に絶する大変化をもたらすものであるかまったく恐ろしい気がする。

かくて今日の宇宙開発など一旦人間の頭の中に生まれた希望は、どんなに荒唐無稽のものでもその意志さえあるなら、歳月を経るといつかは実現するものであるという実感とともに、また、只今流行のウィジョンづくりに、役人と学者が何年か先のことを、現在の

感覚と基盤との上に科学的とうたって計画発表している無駄骨折りの空しさを痛感するものである。マクナマラ国防長官の電子計算機による精密な作戦が、ベトナムにおいてどのように失敗したのも、計算することのできない人間の意志というものを失念していた結果ではなからうか。

案の定、だいぶん脱線したが、「寄せ返る神代ながらの浪の音」とうたわれているように、海は太古から永遠にそのまま動き続けている。海は地球の大半を占めて、いたる所にその種々様々な姿を見せている。私の愛読している雑誌「ナショナルジオグラフィック」にはいつもすばらしいカラーで世界各所の海が、その海底深くまで美しく写し出され紹介されている。たとえそれらの一つをも自分の体験で探り得ないとしても、見ているだけで、ベトナムや安保の問題などどこかへけしとんでしまう。そして無数の生命がそこに生まれ、流れて去って行く厳肅な自然の実相に没入して我を忘れてしまふ。こんな楽しみを覚えてしまった私は、サイケデリックといわれるかも知れぬが、どうしても皆さんをこんな海の神秘の中に引き入れてしまいたいという衝動を押え切れないのである。



## ★ある集い★ その足あと 書道グループ

### “鳳美社”

(グラビア9頁参照)

雑誌「オール関西」に、足立巻一氏が、関西女人伝を連載。昨年九月号に、女流書家「望月美佐さん」を魅力あるじゃじゃ馬書家とその活躍ぶりを紹介した。

それは、NHKTVドラマ「みだれ髪」で与謝野晶子、山川登美子役の手を望月さんが演じて、屏風や短冊などに、二役の書を代筆したことから注目され、めざましい動きをみせはじめたからである。

ことに書の世界に入って10年目を期して、昨秋10月にオリエンタルホテルで開かれた「鳳美社」の発会式は、望月さんとその門下生の書道にかけける気構えをみせた感があった。望月さんは常に「書が書けるという技術だけの人間ではなく、書を通じての人間形成を

はかりたい」という信念をもっている。そのためには、一晚どまりの練成会もやるが、講師を二月に一度まねいて講議を聞く。阪本勝氏には「心の美」について、津高和一氏は「線の芸術」について、続いて、足立巻一、陳舜臣氏など、神戸の文化人の話を吸収する。毎月、第三日曜日は、阪口保氏を招いて「万葉」の古典文学の研究會。三カ月に一度は四国金比羅宮の喜田谷苑氏をよんで篆刻篆書を習い、書に深みを出そうと努力するなど巾のある勉強ぶりだ。

門下生は二百名。職業はさまざまだが、4才児ぐらいから興味があるという望月さんは、子供の習字にも力をそそいでいる。その方法もちょっとかわっていて、一月四回の習字を一回は手本をか

せ、一回は大きな字を手本なしでかかせる。そのときは創作を重んじる。一回は、四年生以上は、学校で習うことを練習。一回は詩と作文をエンピツでかかせさらに創作した詩と作文を習字でとりくむ。そうすると子供たちは楽しみながら、精神を集中して書にあたり、のびやかに個性を発揮してゆくそう

だ。  
幹部のなかには、日展への入選者、日本書芸院の無監査、また、関西女流展の審査員、依頼無監査の人々が10数名にのぼる。

近く東京新宿の紀国屋書店主催の紀国屋講座で月に二回教えることになっている。社長の田辺茂一さんが、ぜひにと招かれたそうである。

幹部の女性は「望月先生の魅力は、人間的な豊かさで向上心が強いところでしょうね。それに女だなあと感じる女らしさも魅力」。男性は「先生の先生ぜんとなないところがいい」と語る。望月美佐さんの、書に賭ける姿勢に、門下生がひきこまれて書道にはげむ姿は、「鳳美社」の充実ぶりをしめしているといえよう。

★鳳美社書道教室★

●火・土(毛筆)本(毛筆)

●尼崎市文化会館、尼崎昭和通二丁目七三  
電話(06)(481)三三三〇・二四二三

●火・土(四〇)九一〇六

●月曜日飯急塚口立総合芸術学院  
●金曜日神戸市兵庫区永室町ノ24

(5)七〇八四

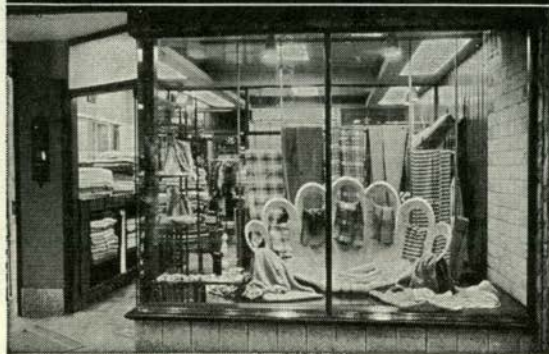




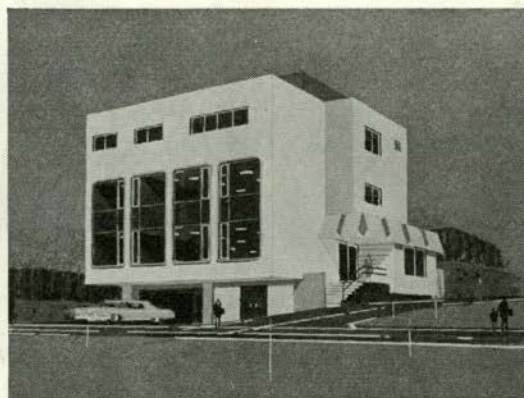
Lady's Shop

*La Mode*

MOTOMACHI KOBE TEL 33 5689



*Akira Beauty Shop*



北野町に 8 月オープンの予定

美容室

**あきら**

西野 明

電話予約制

三宮本通り TEL 33 4461・6458



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



1870 SINCE



BERLIN  
ORIGINAL PELO

日本販売元

元町ハザー

神戸・元町1丁目 TEL (33) 1401-7031  
東京・東急百貨店渋谷・日本橋